

2009年3月期 決算説明会質疑応答



日 時：平成 21 年 5 月 11 日（月） 10：00～11：00

場 所：兜町平和ビル 3階会議室（社団法人日本証券アナリスト協会主催）

質疑応答要旨

質 問	回 答
Q. 今期の創薬事業のライセンスアウトは、どのパイプラインで見込んでいますか？	A. AS-013 で見込んでおります。
Q. 北京泰徳製薬の強みはどのような点にありますか？	A. まずは販売力があげられます。中国全土に350人ものMRを抱えています。また日本のGMP基準を満たす生産設備と高い技術力を有し、日本の製薬企業と遜色ないレベルの生産体制を備えております。臨床開発についても多くのドクターとコネクションをもっていることから非常にスピーディーに多くの患者を集める臨床開発が可能です。唯一、基礎研究が弱いといえますが、当社ならびに熊本大学がその部分を補い担当することで薬品開発を行っていきます。
Q. リポ PGE1 についてインド・ブラジルでの販売は具体化していますか？	A. 現在、インドの大手製薬企業シプラ社に対して製造技術移管を行っており、今後シプラ社がインドの法制に従って臨床試験を推進し、上市できるのではないかと予想しております。
Q. リポ PGE1 のブラジルでの販売はどのようにして行いますか？	A. シプラ社からの販売を考えております。同社は南米や中東に独自の販売網をもっておりますので、それを活用する予定です。
Q. EIP 杵について、1 回の出荷あたりの売上高規模を教えてください。	A. 工場向けの出荷の場合、フルセットで一製剤あたり 1,000 万円前後となります。
Q. 工場において打錠杵を交換するまでの期間はどれくらいですか？	A. 製剤によって大きく異なりますが、短いもので3か月、長いもので2年くらいでの交換と伺っております。
Q. PC-SOD の吸入による投与の研究はいつ頃結果がだせますか？	A. 大手製薬企業へのライセンスアウトを行ってから、共同で研究を進めていこうと考えており、現在複数社と CDA を締結しており手ごたえを感じております。

<p>Q. EIP 技術の医療機器への応用について具体的な製品はありますか？</p>	<p>A. 人工関節への応用を検討しています。また、具体的な試作案件としては、顕微鏡部品等の医療関連製品等もごさいます。</p>
--	--